

第16号
平成29年3月



山梨県立山梨高等学校同窓会
同窓会だより



山梨高校創立100周年記念事業成功を祈念して

同窓会長 吉原 五鈴子

山梨高校同窓会だより第16号の発刊を心から有難く嬉しく存じます。このお便りがお届け出来る新年度、いよいよ山梨高校は創立100周年を迎えます。皆様方の厚いご支援ご協力のお蔭で、100周年記念事業の計画がいよいよ現実化して参りました。拠出頂いた事業費も目標額の3分の2を超え、最たる事業の同窓会館内装全面改修も着手の運びとなります。本事業に協賛頂きました各市や事業所等からも多額のご寄付を頂きまして、厚くあつく御礼申し上げます。

また、同窓生からのご寄付には、振込等によるご寄付に加えて各支部長様方には、献身的に動いて頂き、お陰様で上記の状況になりましたこと、そのご苦労に唯々頭が下がるばかりあります。誠に有難うございました。

さて、平成29年度の定期総会・懇親会は、諸事情により4月30日㈰の開催となります。当番幹事は、昭和49年度と平成6年度の卒業生であり、細野千代美実行委員長はじめ20余名に及ぶ実行委員さん方の精力的なご活躍により、今年度も充実した総会・懇親会が迎えられることと存じます。4月29日の開催が恒例化しておりましたので、お間違のないようお一人でも多くのご参加を心からお願い申し上げます。

この2月末に新たに入会された同窓生(H28年度卒業生)は187名であり、同窓会が一段と若返った感が致します。母校発展の為に共に手を携えあって益々同窓会を盛り立てて頂けるよう期待しております。

2017年、春に

学校長 三森 克人



本校に着任してからもう1年が経過しました。その間、事あるごとに梨窓会の皆様の母校への熱い思いを感じてきました。

この度の100周年記念事業に向けての募金には、多くの同窓生の皆様にご協力いただき、深く感謝しております。記念式典はいよいよ本年の10月7日に行われます。在校生にとっても意義深い式典となりますよう、同窓会・PTAの皆様と共に努力して参りたいと思っております。

さて、ここでは本校での取り組みの一端を同窓生の皆様にご紹介いたします。山梨高校では、長年にわたり県立ろう学校との交流を展開しています。例年行っている本校生徒会本部役員とろう学校高等部生徒全員との交流会において、平成28年度は書道部員も加わり、書道パフォーマンスを行いました。ろう学校の生徒とともに一つの作品を仕上げることができ、一体感を味わうことができました。また、本校学園祭においては、ろう学校の生徒がクラス旗部門や模擬店に参加し、ともに学園祭を作りあげました。さらに、卓球部が合同練習を行ったり、梨窓ウォーキングで一緒に汗を流したりと、交流の幅が広がっています。こうした交流は、生徒が多くのこと学び、自分を見つめ直すきっかけとなっています。

生徒たちは高校3年間で、様々な人やものとの出会いを通じ、成長していきます。今後も多様な価値観と出会う機会を増やしていきたいと考えております。

今年も全日制・定時制で合計187名が卒業を迎える、同窓会の仲間入りをさせていただきました。今後も卒業生、在校生への変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

同窓会研修旅行に参加して

平成28年度も恒例の研修旅行が去る10月23日、予定通り実施されました。心配された空模様も目的地に近づくにつれ回復し、伊那かんてんぱぱ工場を皮切りに駒ヶ岳光前寺・水引工芸館・杵原小学校と、予定されたコースを恙なく満喫しました。今回は見学のみならず、光前寺のご住職のご講話や杵原小学校での体験授業等、心に残る経験もしました。帰りのバスの中では、皆様から一言ずつ感想を頂きました。その感想を列記しながら研修旅行を振り返ってみたいと思います。

「いつも素敵なお話を聞いて下さり心に残ります。感謝ありがとうございます」

「役員会でお会いするだけでは感じられないふれあいの時間が持て、思い出が、また一つ増えました」

「杵原小学校の体験授業は、何十年前にタイムスリップしたようで涙が溢れてきそうでした。三森校長先生の『起立』『礼』『着席』の号令や終業の振り鐘がなんとも懐かしく、昔日の学級委員長を思い起こすほどでした」

「光前寺のヒカリゴケの放つ青白い光は、神秘的でした」

「山梨高校同窓生のエネルギーに乾杯！」等のことばが寄せられ参加者全員が積極的に楽しまれた様子が伝わってきました。

同窓生あっての同窓会です。これから多くの方々が参加されることを期待しています。



駒ヶ岳光前寺にて

奨学金授与式

12月8日、平成28年度奨学金授与式が行われました。やや張り詰めた空気の中、7名の奨学生は保護者と共に入場、校長はじめ関係の先生方、同窓会の役員が同席し、開式されました。

吉原会長の励ましの言葉は温かく「勇気と希望を持ち続け、人として立派に成長してください」と、三森校長からは「真摯に努力を重ね続けて下さい」と心からのエールが送られました。

吉原会長より一人ひとりに手渡された奨学金を手にした生徒たちの笑顔は満々でした。

終りに、3年小池桃香さんから「梨高生として、夢に向かい努力を重ね、先輩が築き上げた梨窓会の奨学生として恥じないよう精進します」とのお礼の言葉がありました。勉学に、部活動に全力を尽くそうとするフレッシュな生徒たちに接し、この奨学金制度が継続・発展されますことを願わずにはいられませんでした。



同窓会入会式

柔らかな春の日差しがぶり注ぐ2月28日、

山梨高校体育館において平成28年度卒業生の同窓会入会式が行われました。全日制181名、定時制6名が新たに会員として入会致しました。

吉原会長より歓迎のことばがあり、その中で、同窓会総会時の在校生による野点・吹奏楽・合唱・応援団の発表等でのご協力に対する感謝の気持ちが伝えられました。また、100周年を迎えるに当たり、記念事業のご寄付への賛同についてお礼のことばも述べられました。

それに續いて、同窓会理事として各クラス2名が委嘱された後、記念品が贈呈されました。

最後に、新入会員を代表して名取美月さんより「伝統ある同窓会に入会し嬉しい思います。これからもそれぞれの道に進んでいきますが、山梨高校の卒業生として誇りを持ち頑張っていきます」と力強い決意が述べられました。

同窓生一同、新入会員の今後のご活躍をご発展を心よりお祈りしたいと思います。

卒業証書授与式に臨んで

門出の日にふさわしい快晴の3月1日、平成28年度山梨県立山梨高等学校卒業証書授与式が厳粛の中にも和やかに挙行されました。

三森校長先生から、187名の卒業生に卒業証書を58名の卒業生へ3年間の皆勤賞が授与されました。

校長先生の式辞では「様々な面で目を見張るような成果を残し、下級生の範となり学校全体を牽引した卒業生の皆さんと、仕事と学業を両立された定時制の皆さんを讃え、校訓『至誠無怠』の精神を忘れず誠実である事を行動の基本としてほしい」と語られました。

吉原会長の祝辞では「卒業を機に、迎える100年の節目に改めて日本の近現代史を辿って歴史を振り返る事により、自分の立ち位置が捉えられるのではないか」「校歌がいつ頃できたかご存知ですか」と問い合わせ、昭和26年に作詞者土岐善磨・作曲者信時潔による素晴らしい校歌が出来た過程が語られ、「校歌にこめられた先人の思いを心に刻み、折に触れ歌う校歌に、大いなる誇りを持って深く感動されるように」と、はげましの言葉が贈られました。

来賓・保護者の皆様・先生方・在校生の鳴りやまぬ拍手に見送られる一段と成長した卒業生の姿は頼もしく、いつの日か振り返った時「あの時代が自分の原点だった」と、山梨高等学校の同窓生として笑顔で戻ってきてくれる日を待ちにしたいと思いました。



吉原五鈴子同窓会長 叙勲！瑞宝双光章！受章を祝って

平成28年度秋の叙勲で吉原同窓会長が瑞宝双光章を受章されました。

改めて吉原同窓会長のパワーの源、これまでの生き方などを中心に、祝賀会の様子等もお知らせ致します。



吉原五鈴子

(よしはらいすずこ)プロフィール

- 昭和12年春日居町に生を受けました
- 五鈴子様が3歳半の時生母が亡くなりました。しかし、祖母や叔母の小川正子様やご家族の皆様に可愛がられ、兄弟姉妹と共に伸び伸び育ちになりました。

吉原会長の人となりについて

○第一、気配りのある人

全体を見渡す、将来を見据える、人の短所や弱点は指摘せず、人を大きく包み時間かけて成長を見守る。

○第二、話題が豊富な人

高校生に語る祝辞の素晴らしさ。吉原会長の祝辞は楽しみであり、聴き入ります。よく本を読んでいるのでしょうか。新聞もくまなく読んでいるのでしょうか。

吉原会長の叙勲祝賀会をこの1月、私たち執行部が発起人となり、企画しました。学校関係者・同窓生・ご家族のご参加を頂き、盛大に執り行われました。挨拶の中で、吉原会長は、叔母の小川正子様や生母の思い出なども話されました。

正子様は、「小島の春」出版の日記の中で「胸やめば離れて暮らす我なれど母の無き子の荷りてくるなり」と記している。

生母が守護神となり、肩のあたりにいて、難関を切り抜ける時、道を開いてくれたとも語っておられました。また、祖母がクリスチャンで吉原会長は教会の日曜学校に連れて行かれて、そこで会長は「人はみな平等である」ことを学び、小川正子様の「生きてゆくに愛と正義の十字路に立たば必ず愛の道につけ」が生きる指針になっていたことなども話されました。

最後に、4人のお孫様からのお祝いと感謝の言葉と共に、山梨高校への応援のエールまで頂き、思わず涙がこぼれ、吉原会長の人柄にふさわしい心温まる会となりました。以上ご報告とともに、再度会員全體でご祝辞申し上げたいと思います。



※参考

- 小川正子様の紹介
- 日本の医師「小島の春」の著者
- 「小島の春」は文学的な価値も高く映画化された。
- 正子の希望で長島愛生園に勤め、ハンセン病の為に尽力された。

瑞宝双光章受章祝賀会の様子

いよいよ今年は創立100周年！

本校は、1917年（大正6年）に東山梨郡立実科高等女学校として開校して以来幾多の変遷を経て、本年2017年、創立100周年を迎えます。この大きな節目に永年の歴史と伝統を受け継ぐべく3年前に、創立100周年記念実行委員会が設立され、本会は、山梨高校・同窓会・保護者で構成され100周年記念事業を順次進めてきました。

今までの創立100周年記念事業の進捗状況をお伝えします。

1、記念事業として同窓会館の改修

業者を矢崎興業㈱に選定し4月から取りかかり9月に完成予定です。

2、創立100周年記念誌の発行

学校の担当職員が中心となり1年前から編集に取り掛かりました。沿革・挨拶文をはじめ資料および写真の収集等を行い、大特集を組み座談会も終え順調に進んでいます。

3、創立100周年記念式典の挙行・記念講演会

本年10月7日㈯に記念式典を実施します。記念講演はテレビでおなじみの明治大学教授で「声に出して読みたい日本語」などで知られた斎藤孝先生に依頼いたしました。是非とも多くの同窓生も話を聴いて頂きたいと思います。

4、創立100周年記念事業のための募金活動

同窓生の皆様の絶大なるご協力により予算額に近づくことができました。一応募金期限は本年の3月末日となっていますが、お一人でも多くの同窓生の皆様のご協力をお願い致します。最後に創立100周年記念事業が成功のうちに実施され、母校山梨高校が益々発展するよう尚一層の応援を重ねてお願いいたします。

学校だより・学校ニュース



「夢はインターハイ」

私たち弓道部は、男子15名、女子23名の計38名で活動してきました。日々後悔しない射を目指して練習し、女子団体では地区大会で優勝、新人戦3位、東日本大会予選では3位という成績を収めることができました。また、男子団体では、1年生大会で2位に入賞しました。個人では私が関東個人選抜大会で優勝することができました。このような良い成績が収められたのは、日頃の練習だけでなく、個々で自主練習を行い、課題を見つけて改善することができたからです。

私はインターハイに登場したいという目標があります。私が1年生の時、3年生の先輩がインターハイに登場しており、「私も出場したい」と大きな憧れを抱くようになりました。そのためには何をおいても練習が必要です。外部コーチや先輩の言葉を胸に、部活動後に自主練習を行い、自分の射の改善点を見つけ、射の研究をしていました。時には、先輩や友達に私の射を見てもらい、たくさんのアドバイスをもらいました。山梨県代表として臨んだ関東大会では、そのアドバイスのおかげで優勝することが出来たのだだと強く感じています。同時に、周りで支えてくれた人達にとても感謝しています。現在は、今後の大会に向けて射をもっと研究し、自分の射癖を見つけてより良い形をつくり、大会で結果を残せるように日々の部活動に励んでいます。

4月になれば、新入生も入部し、私も部長としての仕事が更に増えていると思います。だからこそ、目の前の時間を無駄にせず、練習を重ねていきたいと思っています。そして、総体で入賞し関東大会出場、さらに、インターハイ出場、という二つの目標を達成できるよう、より集中力を高めて部活動に励んでいきたいと思っています。



弓道部 2年1組 雨宮 真弥



「クライミングは自分との闘い」

私は6歳でクライミングを始め、今までいくつもの大会に出てきました。平成28年度は日本ユース選手権大会、アジアユース選手権大会、国民体育大会、IFSC世界ユース選手権大会等、世界大会への出場することもできました。結果は様々ですが、毎回必ずたくさんの刺激を受けモチベーションを高めてもらっています。たとえ優勝したとしてもです。

大会は他の選手との勝負ですが、最終的には自分との勝負だと私は思っています。壁の前に立てば自分と与えられた課題との一対一の世界です。その時後ろにはたくさんの観客がいますが、見られていることへの緊張ではなく、あるいは目の前の課題への緊張がほとんどです。この時は自分の世界に入り込んでいるので、他の選手と競っている感覚ではなく、自分と自分、自分と課題との闘いという感覚になります。だから表舞台の真ん中に立てても内容によっては悔しさが残り、また次のモチベーションへつながります。

きっと今の自分はこうしたことの積み重ねなのだと思います。どんな結果でも、もともとっと強くなりたいという思いがあるから、成長出来ているのだと思います。中でも周りから受けれる刺激はとても大きいです。大会では色々な人がそれぞれの登りのスタイルで登るので、自分だけの空間では得られないことを吸収できます。それはとてもいいことです。

しかし、今年度の後半は強くなるためと思って他の選手から学んだことを自分の登りに取り入れようとして、自分の登りを見失っていました。その結果うまく成績が出せないこともあります。悩んだ末、吸収できることは吸収する、だけど自分の中でぶれない軸を持っていることが大事なだと最近気づきました。他の誰でもない自分をしっかり持て、これからも進んでいきたいです。



登山部 2年2組 戸田 萌希

平成29年度 山梨高校同窓会 総会・懇親会

平成29年4月30日㈰ 午前10:00～

会場：山梨高等学校体育館

及び 梨文化創造館

当番幹事：昭和49年度・平成6年度卒業生



依田道彦
フルート演奏

組曲「アルルの女」
ビゼー作曲

他

同窓生の方でご活躍している方がおりましたら
事務局までお知らせ下さい。
ご紹介させていただきたいと思います。

山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局

〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194 TEL:0553-22-1621 FAX:0553-22-1623

www.yamanashi.kai.ed.jp